

平成27年度 学校評価コメント

質問事項を、肯定的な評価（そう思う、大体そう思う）と否定的な評価（あまりそう思わない、そう思わない）に2分して傾向を見た。

【生徒】

- 三分の一の項目で肯定的な評価が増加している。
(平成26年度は平成25年度と比べてほぼ全ての項目で肯定的な評価がされた。)
- 特に10%を超えて肯定的な評価が増加したのが
 - ・「挨拶がしっかり出来ている」
 - ・「服装・頭髪がしっかりしている」
- 前年度より肯定意見が5%以上増加し、かつ、肯定的な意見が90%を超えているものは
 - ・「挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導」(93.2%) [生徒指導]
 - ・「挨拶がしっかり出来ている」
 - ・「部活動は活発に行われている」(78.2%) [部活動]
- 肯定的な意見が70%に満たないもので、かつ、肯定意見が5%減少したものは
 - ・「マイスクール宣言をよく理解している」(48.7%)
 - ・「校訓を知っている」(66.1%)
- 年を追って評価が増加している項目
学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、部活動、学校行事、防災教育、
開かれた学校づくり、施設設備、
- 県平均(H26)より低いのは、
学習指導、特色ある学校づくり、開かれた学校づくり、いじめ問題、総合満足度で、他の多くの項目
では県平均を上回った。

【保護者】

- 昨年度とほぼ同様の傾向である。
- 肯定的な評価として90%に近い項目
 - ・「挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導」(86.0%) [生徒指導]
 - ・「部活動は活発に行われている」(88.5%) [部活動]
 - ・「学校生活は充実している」(86.7%) [総合満足度]
 - ・「入学させて良かった」(87.7%)
- 肯定的な評価が70%に満たないもの
 - ・「マイスクール宣言をよく理解している」(62.2%)
 - ・「校訓を知っている」(59.0%)
 - ・「いじめ問題に対する取組が共有されている」(51.2%) [教育相談]
- 年を追って肯定的な評価が増加している項目
生徒指導、進路指導、教育相談、生徒会活動、学校行事
- 県平均(H26)より高いのは生徒指導に関する項目で、他の項目は県平均よりやや低い値にある。

【教職員】

- 昨年度とほぼ同様の傾向であるが、5%以上の増加した項目が12に対し、減少した項目も6あった。
- 肯定的な評価が10%を超えて増加したものは
 - ・「黒高生は挨拶がしっかりできている」
- 前年度より肯定的な評価が5%以上増加し、かつ、肯定的な評価が90%を超えているものは
 - ・「資格取得の指導が充実している」
 - ・「黒高生は服装・頭髪がしっかりできている」
- 肯定的な評価が70%に満たないものは
 - ・「校訓に触れて指導している」
 - ・「シラバスの内容が生徒の実態に合ったものになっている」
 - ・「生徒の進路達成に向けて、担任・教科・進路指導部などの共通理解と協力態勢が取られている」
 - ・「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている」
 - ・「校内の情報化は、教育活動や事務処理・成績処理等に有効に機能している」である。
 - ・「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」
- 肯定的な評価が70%に満たないもので、かつ、肯定的な評価が5%減少したものは
 - ・「生徒の進路達成に向けて、担任・教科・進路指導部などの共通理解と協力態勢が取られている」
 - ・「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」
- 防災教育・施設設備・いじめ問題の項目で、肯定的な評価が10%以上減少した
- 生徒の肯定的な評価が教員の評価よりも低く、10%以上開きがあるもの
 - ・学習指導(-16.8%)、・生徒会活動(-16.0%)
 - ・特色ある学校づくり(-15.0%)、総合満足度(-13.4%)
- 保護者の肯定的な評価が教員の評価よりも低く、10%以上開きがあるもの
 - ・学習指導(-13.1%)、・生徒会活動(-21.8%)・いじめ問題(-16.0%)、
 - [保護者の評価で、生徒会活動への評価は年々増加の傾向にある]

【全体を通して】

- 生徒、保護者、教職員に共通して高いのは、生徒指導、進路指導、部活動、学校行事に関する項目で、効果的な教育活動につながっている。
- 学習指導については、生徒の自己評価は向上しているが、教職員の取組が効果的に感じられるよう、引続き研究を続けて行く必要がある。
- 「授業をきちんとした態度で受けている」では、昨年度は生徒と教員の評価に開きがあったが、今年度はともに肯定的な意見が多くなった。
- 特色ある学校づくりについて、本校で行われている特色を生徒に更にアピールし、自己肯定感の向上につなげる契機としたい。「マイスクール宣言の理解」などもさらに進めたい。
- 「いじめに対する取り組み」は、生徒、保護者ともに昨年度とほぼ同じ値であったが、教員の自己評価は15.6%と低い値となった。また、生徒・保護者ともに県平均より低く、取組への理解を高めるとともに、職員間の連携を密にして早期発見に努めていく必要がある。
- 生徒指導や進路指導での効果的な取組を活かし、生徒の自信や保護者の理解を高めるとともに、効果的な学習指導へとつなげて行きたい。